

秋田県大館北秋田地域

重点プロジェクト: 主伐・再造林一貫作業システム推進プロジェクト

公有林の活用による山元への利益還元に向けた取り組み

～森林資源の「循環の輪」創造に向けて～

現状と課題

山元への利益還元に向けた取組の実践及び検証のため、川上から川下までの事業者が連携するための施業フィールドが必要だった。

取組概要

○大館市有林での施業を実践するため、「森林経営及び木材販売に係る協定書」を大館市と大館北秋田地域林業成長産業化協議会で締結し、川上から川下までの参画者による連携体制を構築。

○施業概要

<R1 年度>主伐・再造林 A=8.05ha(素材生産量 V=3,733m³、植栽本数:スギコンテナ苗 18,515 本)

<R2 年度>主伐・再造林 A=11.25ha(素材生産量 V=4,120m³、植栽本数:スギコンテナ苗 25,875 本)

<R3 年度>主伐・再造林 A=4.37ha(素材生産量 V=2,175m³、植栽本数:スギコンテナ苗 10,000 本・コウヨウザン 300 本・ユリノキ 100 本)

取組の成果・効果

○主伐・再造林の実施により大館市有林における素材生産量をモデル事業開始前より増加させることができた【図1】。

○参画者間における伐採・造林～加工～木材販売までの役割や収支結果を明確にするとともに、流通効率化や木材販売価格向上に向けた連携体制を構築。毎年度、施業完了後に収支結果を関係者に公開し、次年度の取り組みへの改善点等を協議することで着実な販売単価の向上につながった。※スギ丸太販売価格実績→R1:8,588 円/m³、R2:8,164 円/m³、R3:9,859 円/m³

○生産された原木を活用し、大館市と防災協定を締結している東京都渋谷区の公共建築物などへ製品を納品した。【図2～4】

取組が進んだ要因

○川上から川下までの参画者の連携により実践し、実施結果(事業費、販売額、素材生産量等)を共有、検証することで工夫点や改善点等を協議し、次年度以降の取組に反映している。

これから取組む地域へのアドバイス

○山側の起点が無いと“川上から川下までの連携”とは言えず部分的な連携になってしまいます。当地域は公有林を中心とした取り組みとなりましたが、地域によって状況が異なるため、必ずしも公有林である必要はなく、誰が起点(生産拠点)になるかが重要かと思えます。

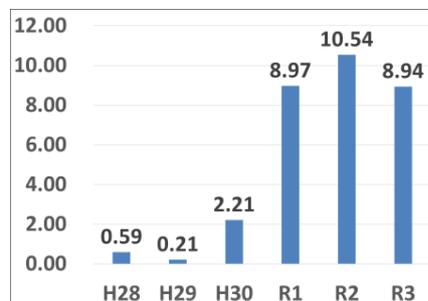


図1 市有林原木生産量推移(千 m³)



図2 渋谷区子育てネウボラ(スギフローリング)



図3 豊洲レストラン(スギ下地材)



図4 清水建設(株) 東北支店(スギ LVL)

【担当】

大館市産業部林政課木材産業係 主任主事 千葉 泰生

【連絡先】

メール: mokuzai@city.odate.lg.jp

電話: 0186-43-7076

URL: <https://www.city.odate.lg.jp/city/soshiki/mokuzai>